

人間対ヒューマノイド：Figure「Man vs Machine」10時間対決の全貌と検証



人間 (Aime)

対決の最終結果：僅差の攻防

最終仕分け数 (人間)

12,924個

差はわずか192個 (約1.5%)。



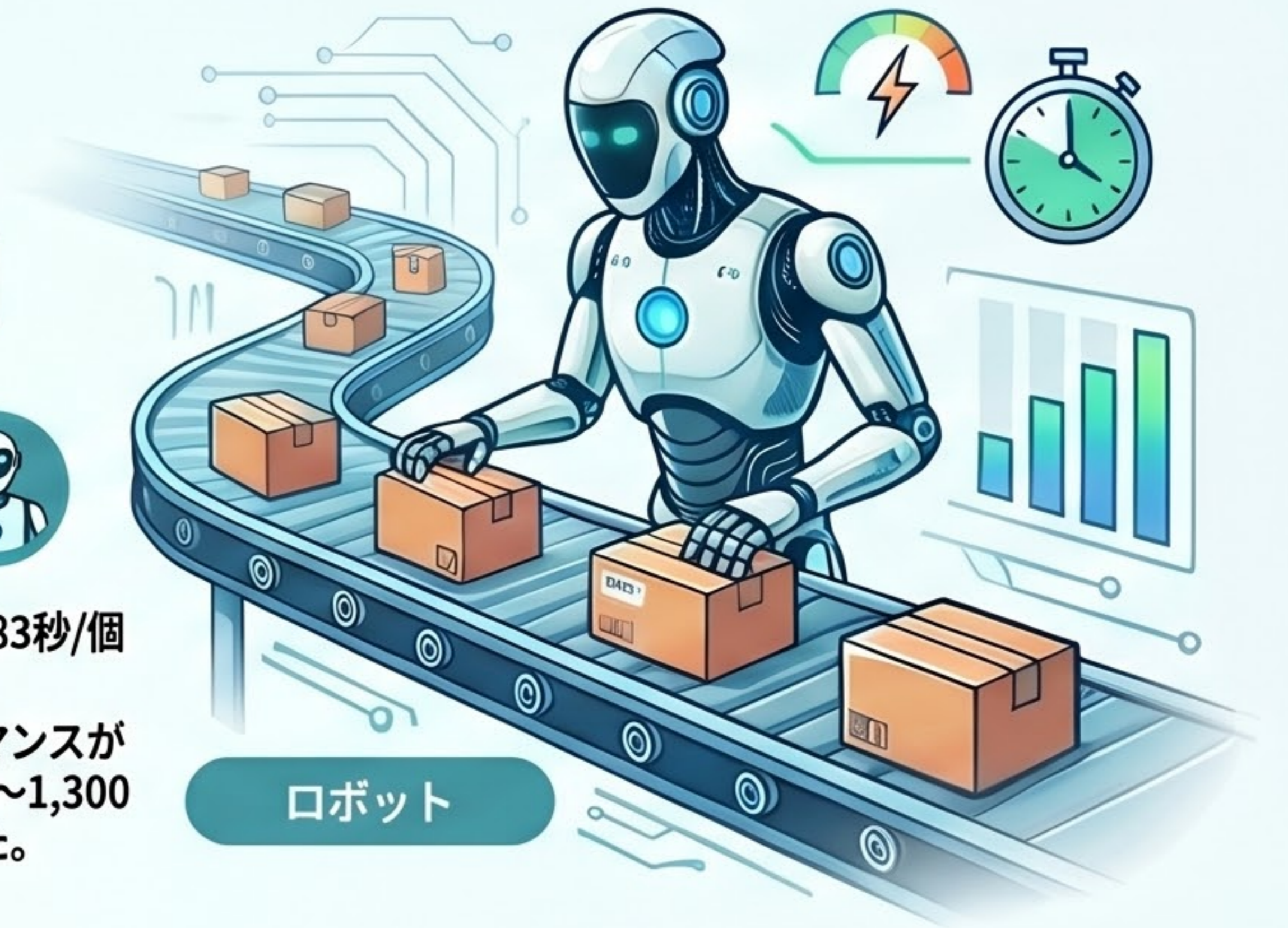
平均サイクルタイム (人間)：2.79秒/個
この数値は「休憩時間」を含むシフト全体の平均。純粋な動作速度だけでなく、長時間の持続安定性が勝敗を分けた。

最終仕分け数 (ロボット)

12,732個



平均サイクルタイム (ロボット)：2.83秒/個
ロボットのスループット安定性：人間は休憩や疲労によりパフォーマンスが変動したが、ロボットは時速1,220~1,300個の範囲で安定した稼働を維持した。



ロボット

対決までのタイムライン (2026年5月)



5月14日
Figureが8時間の自律仕分け配信を開始
「ゼロ失敗」を理由に、配信を24時間365日の連続稼働へ延長することを決定。



5月16日
対決の告知
Brett Adcock CEOがSNSで「Tomorrow 10am PT: Man vs Machine」と電撃告知。



5月17日 10:00 (PT)
対決開始
日本時間では5月18日 02:00。10時間にわたる「人間 vs ロボット」の直接対決が実施された。

検証の盲点：公平性と透明性の課題



個体 vs チームの語義：人間は1名 (Aime) だったが、ロボット側は「team」と表現され、複数機体の引き継ぎやメンテナンス交代が行われた可能性が高い。



非公開のエラーメトリクス：総誤り率、誤向き率、落下率、介入回数は一切公開されておらず、実運用上の「手直しコスト」が不明。

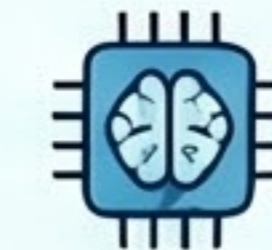


実物流との乖離：ループコンベヤにより「同じ荷物」が循環しており、未知の荷物や複雑なSKUへの対応力は示されていない。

比較項目のステータス

項目	公開状況	内容 / 課題
総仕分け数	✓ 公開済	人間が192個差で勝利
平均速度	✓ 公開済	体験込みの「聖時計時間」ベース
誤り率	? 非公開	落下、誤向き、介入回数は不明
荷物仕様	? 非公開	材質、重量分布、SKUの多様性が不明
ロボット構成	? 曖昧	単一機体か、チームによる交代制が不明

技術的進歩と今後の期待



次世代AIスタック「Helix」の役入：視覚・触覚・固有感覚を統合した全身制御により、ポリ袋や封筒などの変形物への対応力が向上している。



大幅な高速化：前年モデルの4.05秒/個から大幅な高速化 (2.83秒/個) を実現。



労働安全衛生への貢献：倉庫の反復仕分けは筋骨格系負荷が高い作業であり、ロボットによる代替は労働者の健康被害を抑制する合理的な解決策となる。